

**“ヒルズの未来形”「虎ノ門・麻布台プロジェクト」
「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」がお台場から移転
～世界を惹きつける東京・日本のデスティネーションがさらに進化～**

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長:辻慎吾)は、2023年の竣工・開業に向けて推進中の「虎ノ門・麻布台プロジェクト」において、チームラボと共同で企画運営するお台場の「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」を移転・開業します。新たに誕生するミュージアムでは、コンセプトである「境界のない1つの世界の中で、さまよい、探索し、発見する」を継承しつつ、展示作品やアート体験を進化させ、よりボーダレスにすることで、世界の人々を魅了する「東京・日本のデスティネーション」としての地位をさらに強化します。なお、お台場の既存ミュージアムは2022年8月31日をもって閉館いたします。



虎ノ門・麻布台プロジェクト
©DBox for Mori Building Co.



森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス
©チームラボ

「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」は、2018年6月にお台場・パレットタウン内にオープンし、初年度だけで、世界160カ国以上から、約230万人の動員を達成しました。

また、約230万人の来館者のうち、訪日外国人割合は約50%(※1)に達し、さらに、当館が実施したアンケート調査によると、来館した訪日外国人のうち約50%(※2)が当館を目的として東京を訪れたことが明らかとなっています。加えて、米国のニュース雑誌TIME誌による「世界で最も素晴らしい場所2019年度版(World's Greatest Places 2019)」への選出に始まり、国内外において権威ある賞を多数受賞するなど、誕生からわずか数年で「東京・日本の新しいデスティネーション」として定着し、広く世界の人々を惹きつけてまいりました。

人々の様々な営みがシームレスにつながる街「虎ノ門・麻布台プロジェクト」に移転・開業する新たなミュージアムは、「境界のない1つの世界の中で、さまよい、探索し、発見する」のコンセプトを引継ぎながら、「東京・日本のデスティネーション」としてさらに進化し、誕生します。

森ビルは、チームラボとの協働を通じて世界中の人々を惹きつける新たなミュージアムを都心部に創出することで、引き続き、国際都市・東京の磁力向上に貢献してまいります。

「森ビル デジタルアート ミュージアム:チームラボボーダレス」ティザーサイト:
https://www.teamlab.art/jp/e/borderless_azabudai/

※1 公式ウェブサイトチケット購入者データより(調査期間:2019年2月16日-6月7日)

※2 来館者を対象に実施したアンケート調査より(調査期間:2018年10月25日-11月2日)、回答者数1,237人

【本件に関するお問い合わせ先】

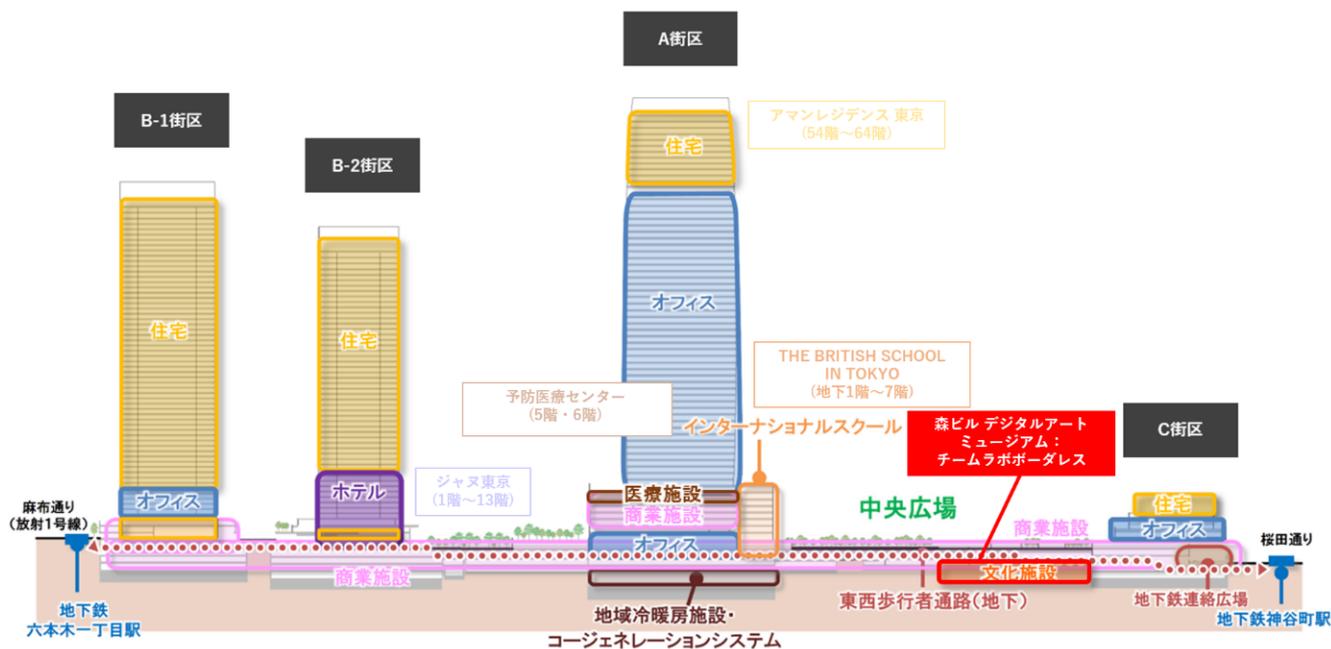
森ビル株式会社 広報室 秋葉、浅野

TEL: 03-6406-6606 FAX: 03-6406-9306 E-mail: koho@mori.co.jp

【虎ノ門・麻布台プロジェクト 配置図】



【虎ノ門・麻布台プロジェクト 立面図】



<参考資料①> お台場「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」の実績

デジタルテクノロジーを駆使した、最先端の現代アートミュージアム

当館は“Borderless”のコンセプトのもと、デジタルテクノロジーを用いて、鑑賞者によってアートが刻一刻と変化する唯一無二の世界観を、圧倒的なスケールで実現。

さらには、『他者と共に創造することを楽しむ体験』『身体をつかった能動的な体験』として来館者に驚きと感動を与え続けてまいりました。

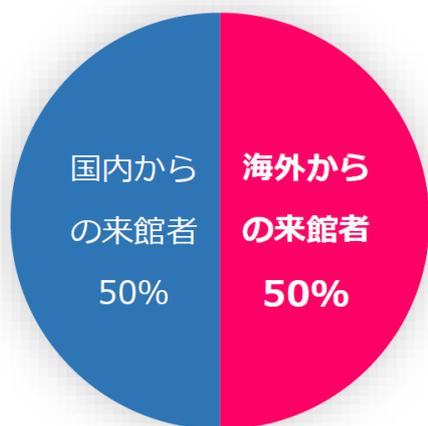


チームラボ《呼応するランプの森 - ワンストローク》©チームラボ

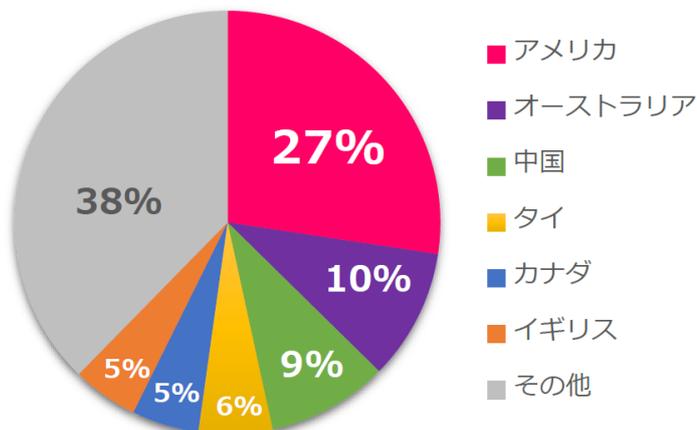
初年度来館者の訪日外国人割合は約 50%

オープン後 1 年間で、世界 160 カ国以上から約 230 万人のお客様にお越しいただき、訪日外国人割合は約 50%に達しました。訪日外国人の国・地域別割合は、1 位アメリカ、2 位オーストラリア、3 位中国、4 位タイ、5 位カナダ、6 位イギリスと、近隣諸国のみならず、遠方の国からのお客様が多いことが特徴です。また、当館が実施したアンケート調査によると、来館した外国人のうち約 50%が当館を目的に東京を訪れたことが明らかになっています。

訪日外国人割合



訪日外国人の国・地域別割合



世界に類のないアートミュージアムとして、国内外から高評価

「圧倒的なスケールで表現する独特な世界観」「その瞬間、その空間にしか同じ状態で見られず、訪れた人に高い体験価値の提供」「感染症対策を徹底した安全・安心な環境」などの点が評価され、米国の国際的なニュース雑誌 TIME 誌による「世界で最も素晴らしい場所 2019 年度版 (World's Greatest Places 2019)」に選出されるなど、国内外の権威ある賞を多数受賞し、注目を集めてきました。

<参考> 当館の受賞履歴 (2019 年以降)

2019 年	1月	「Artsy」2018 ヴィジュアルカルチャー部門 (米)
		第37 回 日経優秀製品・サービス賞 (日)
	4月	第48 回 フジサンケイグループ広告大賞 パブリック部門 優秀賞 (日)
		Leading Culture Destinations Awards 2018 ノミネート (英)
		THE DESIGN PRIZE 2019 ノミネート (伊)
2020 年	1月	THE 25th THEA AWARDS FOR OUTSTANDING ACHIEVEMENT (米)
	10月	ブレイド社「CX Awards 2019」受賞 (日)
	9月	TIME誌「世界で最も素晴らしい場所 2019年度版」(米)
2021 年	3月	VFX-JAPANアワード2020 優秀賞 (日)
		第3回 日本サービス大賞 総務大臣賞 (日)
	3月	クールジャパン・マッチングアワード2021 グランプリ (日)

<参考資料②> 「虎ノ門・麻布台プロジェクト」について

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。約8.1haもの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約6,000 m²の中央広場を含む緑化面積は約2.4haに上ります。延床面積約861,500m²、オフィス総貸室面積213,900m²、住宅戸数約1,400戸、A街区タワーの高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、想定年間来街者数2,500～3,000万人で、そのスケールとインパクトは六本木ヒルズに匹敵します。本プロジェクトは、当社がこれまでの「ヒルズ」で培ったすべてを注ぎ込んだ「ヒルズの未来形」として誕生します。

“Modern Urban Village”を支える「Green」と「Wellness」

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」のコンセプトは「緑につつまれ、人と人がつながる『広場』のような街 “Modern Urban Village”」。そして、このコンセプトを支える2つの柱が「Green」と「Wellness」です。圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で、多様な人々が集い、人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指します。

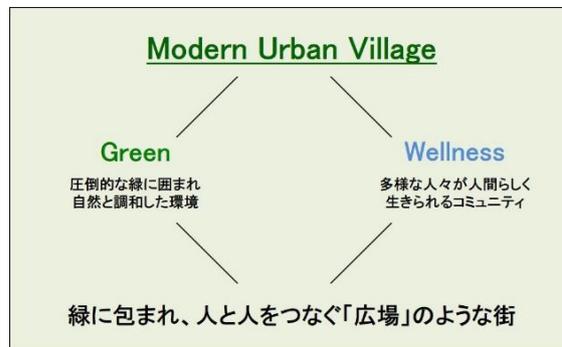
「虎ノ門・麻布台プロジェクト」では、はじめに人の流れや人が集まる場所を考え、街の中心に広場を据えて、シームレスなランドスケープを計画。その後、3棟の超高層タワーを配置しました。これは、まず建物を配置し、空いたスペースを緑化するという、従来の手法とは全く逆のアプローチです。高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000m²の中央広場を含む約2.4haの緑地を実現しました。水と緑がつながるランドスケープを整備し、自然あふれる憩いの場を創出します。また、街全体で「RE100 (Renewable Energy 100%)」に対応する再生可能エネルギーの電力を100%供給します。世界最大規模の登録面積となる「WELL認証」や「LEED-ND認証」の予備認証も取得しています。

加えて、プロジェクト内の医療施設を核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといった様々な施設のほか、広場、菜園等も1つのメンバーシッププログラムで結び、外部施設や医療機関とも連携しながら、この街で住み、働くことの全てが「ウェルネス」に繋がる仕組みを導入する予定です。

本プロジェクトでは、都市の低炭素化、生物多様性の保全、省エネルギー化、真に豊かな健康等、世界中が頭を悩ませている様々な課題に対する1つの解を提案します。



虎ノ門・麻布台プロジェクト

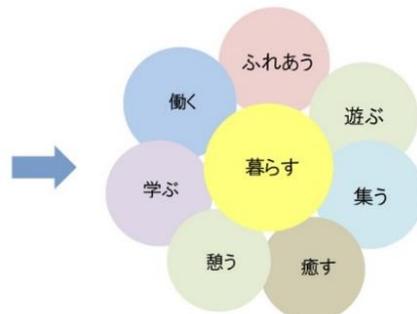


コンセプトの柱「Green」と「Wellness」

人の営みがシームレスにつながる街

「虎ノ門・麻布台プロジェクト」は、人々の営みがシームレスにつながる街になります。オフィス、住宅、ホテル等の施設ありきで都市を設計するのではなく、施設の垣根を取り払って、人の営みから都市づくりにアプローチしました。この街では、「暮らす」「働く」「集う」「憩う」「学ぶ」「楽しむ」「遊ぶ」等、人々の様々な営みがシームレスにつながり、人と自然とが調和し、人と人がつながり、刺激しあいながら創造的に生きられる新しい都市生活を実現します。様々な施設が共に連携し、人々に新たなライフスタイルを提案することで、緑豊かな街全体が学びの場となり、仕事場となり、我が家となり、遊び場にもなります。

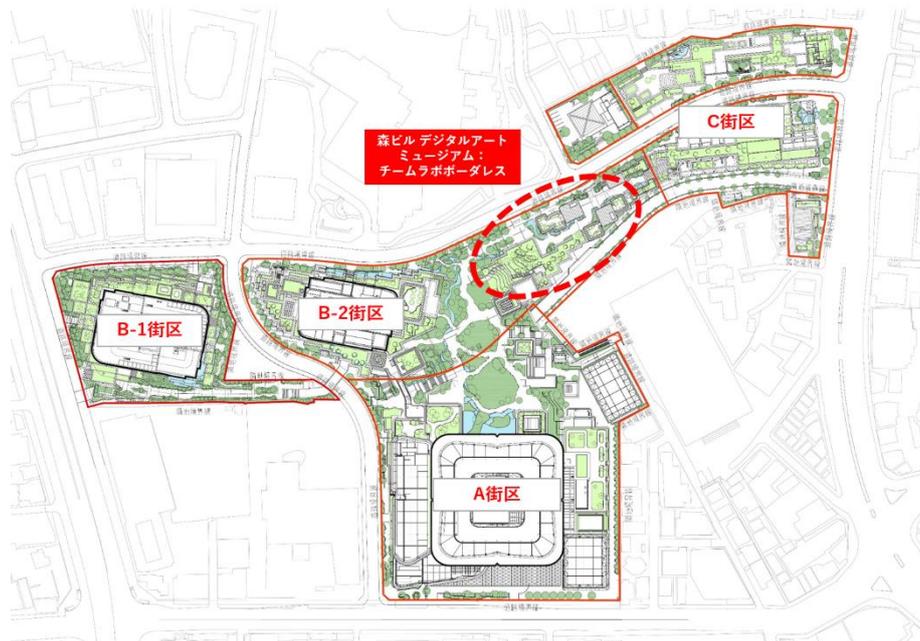
オフィス	住宅	学校
ホテル	ショップ	レストラン
病院	文化施設	スポーツ



プロジェクト概要

事業名称	: 虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業
事業者	: 虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合
区域面積	: 約 8.1ha(施行地区面積)
敷地面積	: 約 63,900 m ² (約 19,330 坪)
延床面積	: 約 861,500 m ² (約 260,000 坪)
主要用途	: 住宅(約 1,400 戸)、事務所(約 213,900 m ²)、店舗(約 150 店)、ホテル(約 120 室)、 国際スクール(約 14,000 m ² 、ブリティッシュ・スクール・イン・東京(予定)) 中央広場(約 6,000 m ²)、文化施設(約 9,000 m ²)、予防医療センター(約 3,600 m ²)
緑化面積	: 約 2.4ha
駐車場	: 約 1,880 台
事業費	: 約 5,800 億円
着工	: 2019 年 8 月
竣工	: 2023 年(予定)

【配置図】



【立面図】

